

草津市の高齢人口に関する調査研究報告書

2019(平成31)年3月

草津市 草津未来研究所

要旨

この報告書は、草津市の高齢人口（65歳以上人口）の現状について調査研究したものである。

日本の総人口は2018（平成30）年10月1日現在、1億2,644万人、高齢人口は3,558万人となっており、高齢化率は28.1%となった。高齢化率は1990（平成2）年に12.1%であったが約30年で急速に進展している。また、少子化、核家族化が進んでいることも相まって、一人暮らし高齢者は1990（平成2）年に11.2%であったところが、2015（平成27）年には18.0%と一人暮らし高齢者が増加している。一人暮らし高齢者は孤食による低栄養のリスクが高い可能性が示唆されている等、課題が指摘されている。人生100年時代と言われる現代において、長くなった高齢期を充実したものにするため、高齢者の生活の満足度向上は重要である。

草津市では、現時点において少子化は進んでおらず、高齢化率も全国平均と比較して低いものの、高齢化率は年々上昇しており、今後も上昇が続くことが予想される。この上昇は市内一円で同じように進むのではなく、地域によってその進行は異なると考えられ、その中でも一人暮らし高齢者が増加することが見込まれる。今後、全国と同様にますます進むことが予測される高齢化に対応するために、各種計画策定時等にも行われているが、まずは現状把握が欠かせない。

そこで本調査研究では、草津市の高齢人口の特徴を見出すべく、市全体に加え、3つの観点、すなわち①小学校区別、②家族構成別、③主観的幸福度別から諸調査の結果の分析を行った。

高齢化が進行する将来においても持続可能なまちであり続けるため、特に今後さらに増加が見込まれる一人暮らし高齢者が不安に感じている災害時の対応等について、対策がこれまで以上に必要である。これらを少しでも解消することで、主観的幸福度、生活の満足度が向上し、住みよいまちづくりへ寄与するのではないかと考える。

目次

はじめに.....	1
第1章 日本の高齢化.....	2
1 高齢化の状況.....	2
2 高齢者の定義.....	3
第2章 草津市の現状分析.....	5
1 市全体.....	5
2 小学校区・地区による分類.....	7
3 家族構成による分類.....	15
4 主観的幸福度による分類.....	22
第3章 草津市の高齢化の特徴と課題.....	28
1 特徴.....	28
2 課題.....	30
3 今後の方向性.....	31
おわりに.....	32
関係者一覧.....	33
参考文献.....	34
参考資料.....	36

はじめに

日本の65歳以上人口（以下、「高齢人口」という。）は2042年にピークを迎えると推計されている一方、後述するように人口構成が全国より若い草津市は推計最大期間の2045年まで一貫して増加すると推計されており、高齢化については、草津市は全国より長く向き合う問題である。

これからのまちづくりにおいては、人口減少に伴い、縮小のまちづくり、上手に縮むことが求められる。社会保障費は増加の一途を辿っており、公助だけでなく、共助・互助・自助の力が必要と言われて久しい。

国は2040年を展望した政策ビジョンを打ち出そうとしているところである。本市においても政策展開を検討していくために、まずは現状分析が必要である。

そこで本報告書では、最初に日本の高齢化について示し、次に草津市の高齢化の状況について分析を行う。全数調査である国勢調査を基に、市全体と小学校区・地区別、そして抽出調査を基に、家族構成、主観的幸福度の観点から高齢人口の現状分析を行うこととする。最後に、草津市の高齢化にかかる課題の抽出およびこれからの政策の方向性の検討を図る。